

小中合同運動会開催や地域行事参加により、地域を元気にしよう

岩国市立岩国西中学校 校長 濱田 匡弘
いわにしネット協議会 会長 坂本 克彦

1 小中合同運動会の開催について

(1) 経緯について

岩国西中学校は、北河内中・天尾中・河内中の3校が22年前に合併し、校区には杭名小・河内小と現在休校中の天尾小がある。岩国市では令和2年度から小中一貫教育を推進するにあたり、本校校区ではこれまでもオープンスクールにて児童生徒が交流したり、綱紀保持や道徳授業に関する合同研修会を実施したりしてきた。さらに結びつきを強くできる取組の実施をと考え、2小1中合同による初めての合同運動会を開催することとした。

(2) 当日までについて

前年度に生徒・保護者にアンケートを実施し、合同運動会実施についての意見や思いを確認した。その後、児童生徒の集会、PTAの会議、学校運営協議会、いわにしネット協議会などの会議において、開催決定を確認した。

合同運動会開催に向けた会議として、管理職会議、企画会議（校長・教頭・教務主任・体育主任による）、体育主任会、職員係別集会、事務職員会議、3校PTA役員会議などを開催し、準備を進めた。

いわにしネット協議会においては、できるだけ多くの地域の方が来校される取組を検討した。まずは、地域のシンボルキャラクターを決定し、のぼり旗にも配置し、地域のシンボルとすることとした。（別項参照）あわせて、児童生徒が作成したポスターを地域の主な場所に掲示し、周知を図った。公民館や商店、自治会掲示板だけでなく、本校生徒の半数が利用する錦川鉄道の駅や車内への掲示も許可していただき、さらに多くの地域の方に浸透することができた。



【河内ふれあい広場】

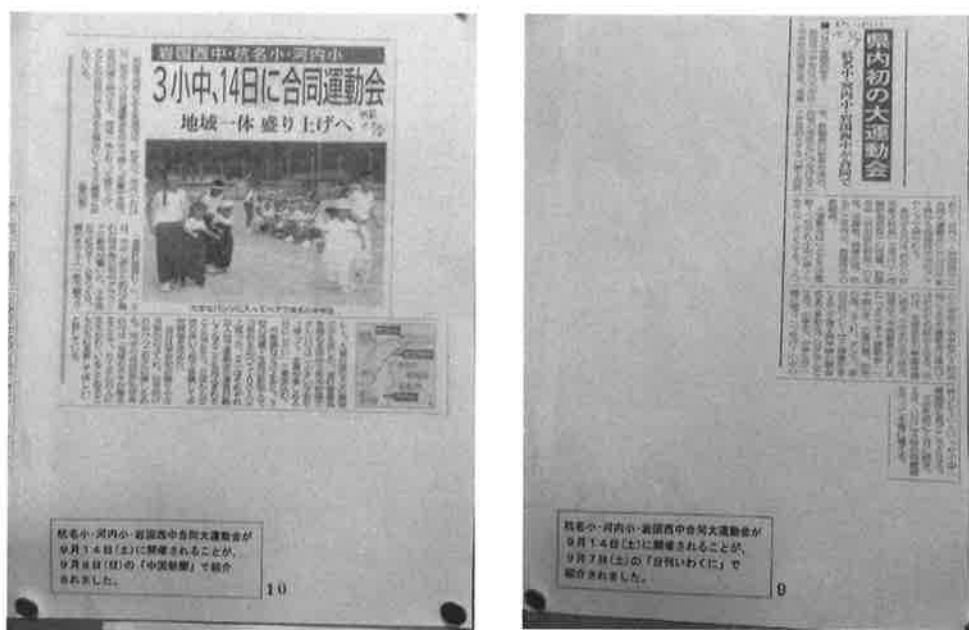


【江木商店】



【守内かさ神駅】

また、当日の多くの来校に向けて、報道機関への通知も行った。実施日までに取り上げてくださる新聞も複数あり、実際、記事を目にして当日来校された方もおられ、大変効果的であった。



合同運動会に向けた練習は、予行とあわせて3回実施した。2小学校から本校への徒歩移動は難しいため、岩国市教育委員会の特段の配慮によりバスを準備していただき、円滑に移動することができた。練習については、合同で行う様々な競技について、中学生が小学生をやさしく指導するスタンスで、いいムードを醸し出しながら進めることが出来た。そのような練習風景を保護者や祖父母、地域の方が参観に来校されることもあった。

(3) 当日について

天候に恵まれ、晴れやかな秋晴れのもと、児童生徒たちは思う存分演技することができた。保護者、来賓、地域の方、およそ400名という多くの来校者があり、地域の活性化に貢献することができた。当日の競技を引っ張る中学生の姿を小学生が見て、憧れを抱く者が多かった。そのような光景を幾つも確認でき、まさに「憧れの連鎖」を生み出すことができた。以下に、感想のいくつかを紹介する。

- 中学生は時間を守り、早く行動していたし、大きな声を出していたので、これからの生活に生かしたい。スローガンの小中のきずなが少し深まったと思う。(小6)
- 思い出に残ったことは、中学生とやった「でかぱんりレー」です。その理由は、中学生とやってみずかしかったけど、きずなが深まったかなと思ったからです。(小5)
- 今年初めての合同運動会だったけど、すごく楽しくて、新しい友達ができたとし、きずなが全員近くなったかなと思いました。(小5)

- 初めての小中合同大運動会で、最初は「楽しみ」より「不安」の方が大きかったです。合同練習や予行演習をして、その「不安」は少しずつなくなっていました。小学生のがんばりもすごいと思いました。応援練習では、みんなで大きな声を出すことが大変だったけど、本番は楽しくできたのでよかったです。(中3)
- 小中合同で運動会をすると聞いたとき、とても驚きました。最初は、「にぎやかで楽しそうだな」と思いましたが、実際に小中で練習してみると、自分の動きだけでも手一杯なのに、小学生にも指示を出したりしないといけないので、とても大変でした。「小中の絆リレー」のとき、ペアになった小学生は、話してみるととても面白くて楽しかったです。来年は、今年よりももっと小中の絆を深めて、よりよい運動会にしてもらいたいです。(中3)
- 初めての小中合同大運動会とは思えないくらい、それぞれが協力できていたように思う。それぞれの学校のいいところも出せ、特色を消すことなく表現できていたように見えた。(保護者)
- 何十年ぶりで、昔のようなにぎやかな運動会を見ました。「人数が多いのはいいね」というのが地域の皆さんの一番の意見でした。「元気がもらえるね」という声も多かったです。(学校運営協議会委員)



また、当日の多くの来校に向けて、報道機関への通知も行った。実施日までに取り上げてくださる新聞も複数あり、実際、記事を目にして当日来校された方もおられ、大変な効果があった。



(4) 次年度以降について

今年度の取組を、さらに次年度に継承発展させていきたい。小中合同の競技を増やしたり、地域の方の招待状にメッセージを付記したりすることで、小中一貫教育をさらに進めるとともに、地域活性化に貢献していきたい。

2 地域行事への参加について

地域のお祭りの行事である「菜の花フェスティバル」や「河内ふれあい広場周年イベント」、環境整備行事である「南河内駅周辺環境整備」や「錦川流域一斉清掃」、公民館行事である「北河内地区敬老会」「南河内地区敬老会」などに、本校生徒は積極的に参加し、運営への協力や清掃に取り組んだ。過疎地域であるため、元々の人口が少なく、若者人口はさらに少ない中、中学生の行事への参加は心から喜ばれている。さらには、地域の方の温かい声かけから中学生の自己肯定感も高まる場にもなっている。



【菜の花フェスティバル】



【北河内地区敬老会】



【南河内駅周辺環境整備】

3 「いわにしネット協議会」シンボルキャラクター決定とのぼり旗作成について

(1) 一次選考までについて

当初の考えとしては、初めて開催する小中合同大運動会のシンボルとして、位置付けたかったが、白紙の状態から2小1中が合同で行う運動会を作りあげていくことは大変な労力と調整が必要で、とても同時並行で進めることはできなかった。そこで、運動会終了後に、進めることとした。まずは、全児童生徒に意識してもらうため、以下の要領と用紙で全員から応募作品を出させた。投票は、それぞれの学校内で、児童生徒と教職員を対象に実施し、小学校からは3点ずつ、中学校からは4点を選考した。

「いわにしネット協議会」シンボルキャラクターの募集について

1 「協議会」について
協議会とは、協議する事柄を話し合うこと。協議会とは、協議する事柄を話し合うこと。協議会とは、協議する事柄を話し合うこと。

2 「いわにしネット協議会」について
協議会とは、協議する事柄を話し合うこと。協議会とは、協議する事柄を話し合うこと。協議会とは、協議する事柄を話し合うこと。

3 「いわにしネット協議会」の、めざす子ども像について
協議会とは、協議する事柄を話し合うこと。協議会とは、協議する事柄を話し合うこと。協議会とは、協議する事柄を話し合うこと。

4 「いわにしネット協議会」シンボルキャラクター募集要領

1 募集内容	「いわにしネット協議会」シンボルキャラクターを募集する。
2 募集対象	協議会加盟校（協議会加盟校）の児童・生徒。
3 募集期間	協議会加盟校（協議会加盟校）の児童・生徒。
4 募集内容	協議会加盟校（協議会加盟校）の児童・生徒。
5 募集内容	協議会加盟校（協議会加盟校）の児童・生徒。
6 募集内容	協議会加盟校（協議会加盟校）の児童・生徒。
7 募集内容	協議会加盟校（協議会加盟校）の児童・生徒。

「いわにしネット」シンボルキャラクター応募票

氏名 (ふりがな) _____ 学年 () 年 () 番 ()

キャラクター名 (ふりがな) _____

キャラクターデザイン (ふりがな) _____

キャラクターの意味 (ふりがな) _____

※10月31日(木)までに、協議会事務局へ提出してください。

(2) 二次選考とシンボルキャラクター決定について

一次選考に残った10作品は、どれも見応えがあり、本校区の特徴を反映したものばかりとなった。これらの中から最終的に1点を選ぶ方法として、各校の参観日を利用し、児童生徒・教職員だけでなく、来校された保護者や地域の方からも投票していただいた。3校の児童生徒と教職員は140人ほどだが、今回は全部で380人もの方が投票して下さった。多くの方の関心と呼び、本校区の特徴を見直す良い機会となった。その380票中、98票を獲得した「KIZUNAちゃん」が、「いわにしネット協議会」のシンボルキャラクターに決定した。次ページに10作品と決定したシンボルキャラクター、完成したのぼり旗を紹介する。

いわにしネット協議会・シンボルキャラクター・最終候補



掲示用

「いわにしネット協議会」シンボルキャラクター 決定!

「いわにしネット協議会」シンボルキャラクターについては、杭名小・河内小・岩国西中3校の空児園生徒の皆さんに案を考えてもらい、まず各校で1次審査を行いました。そこで選ばれた合計10作品から、各校の児童参事会や学習発表会などで、児童生徒・教職員だけでなく、保護者の方や地域の方にも投票していただきました。結果、全得票数380中、95票を得た、

岩国西中学校3年、弘中結麻さんが考えた「KIZUNAちゃん」(きずなちゃん)に決定

することになりました。3校の名前、地域にある橋、山の緑や川の青、武井港運の4色の車輪の色などがデザインされています。これから地域のシンボルとして、天候くわいの印づくにしたい。
「KIZUNAちゃん」については、車通、行事などで使用するほか作成するのほり旗、印刷し、学校たよりの校章冊が運動会等に使用するポスターなど、積極的に活用していきます。
おしくも調がきれきんてしたが、地域審議に当たった作品も、どれもとても良く考えられていた。作製ばかりでした。最終審査で選らなかつた作品の中にも、素晴らしい作品がいくつもありました。これからは、この取組のことを、何やら思いで持つめて、お互がさらに強くたあんにできることが何かないか考え、実行できる人いてください。



「いわにしネット協議会」委員の方から、「ようやく、今回、のぼり旗という形になって良かったね」との声が数多く聞かれた。このような地域の方の思いをこの旗にこめ、地域と一体となった取組をより一層推進していきたい。

